

# 北白川こども食堂「からふる」

活動場所：北白川児童館／京都市左京区

活動時期：平成 28 年 9 月～

## 発表団体

学生団体からふる



## 連携メンバー

北白川児童館  
セカンドハーベスト京都  
京都の農家の方

地域連携ユニット COCOLO 域  
魔法にかかったロバ  
きっかけ食堂  
ゆねすこ

## 活動内容

学生団体からふるは、「食卓」という場を通じて、年齢や立場の異なる人同士が気軽に会話できるような「みんなの居場所」を作りたい。京都が素敵な子どもであふれた街になってほしい。そんな想い持った京都の大学生を中心に 2016 年より活動を開始した。

具体的には、低価格で健康的な食事を子ども達に提供することで、子どもを含めた様々な地域コミュニティの形成及び強化を目指しており、現在は北白川児童館を中心に活動している。

なぜ学生が子ども食堂を運営するのか。それは、子どもたちと比較的年齢の近い学生が、同じ目線に立つことで、子どもたちにとって安心で楽しい話しやすい空間を作ることができるからである。学生ならではの企画に取り組み、話したり一緒に歌ったりすることを通して、子どもたちに新たな出会いやつながりを提供していきたいと考えている。

さらに、子ども食堂を学生が運営することにより、学生が参加しやすい地域コミュニティを作り、学生を含んだ新たな地域住人の関係を形成できると考えおり、学生がこの活動に携わることに深い意義を感じている。

## 取組の成果・活動で工夫した点

食事を低価格に設定する、開催日を土曜日にする、北白川児童館および幼稚園へのビラ設置に加えて twitter や Facebook、HP 等で告知する、など多くの方にご参加いただけるよう工夫している。現在は、北白川地域を中心に、小学生のほか乳幼児や中学生、保護者の方など 30-50 名の参加がみられる。

行政・大学機関・農家さん・他の学生団体等、連携先が広がっている。流しそうめんなどの季節に合わせた企画や、東北の魚の解体ショー等のイベント企画を、他の団体と連携することで実現し、未知のものを体験する機会を子どもたちに提供している。

直接農家の方から季節の野菜をいただくことで、地産地消の推進や食材費の軽減を目指している。

食事をするスペースでギターや歌を奏でることで、明るく話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。

新しい食材に触れて欲しいという願いから、子どもに食べにくいやうな食材等も食べてもらえるように検討している。



## 連携メンバー・役割

北白川児童館	子ども食堂の会場、職員の方・小学校高学年による運営のお手伝い
セカンドハーベスト京都	子ども食堂で使用する米の提供
京都の農家の方	子ども食堂で使用する季節の野菜の提供
地域連携ユニット COCOLO 域	ビラの印刷、マイク等機材の貸し出し
魔法にかかったロバ	(日替わり店長のお店) 流しそうめんで使用した竹の提供
きっかけ食堂	(京都で東北の食材を紹介する学生団体) イベント企画への協力(東北の魚の解体ショー)
ゆねすこ	(こどもと遊ぶ学生のボランティアサークル) 当日の運営のお手伝い

## 今後の課題・目標

### ◆今後の課題

参加者の大半を、北白川小学校の児童および保護者の皆様が占めている。地域で児童のいない世帯の方々にいかに参加していただくかが今後の課題である。

現在、学生スタッフで企画運営から調理まですべてを行っており、スタッフの人数不足から、子ども食堂当日に子どもと一緒に食事するのが難しい。今後は、学生に限らない運営メンバーの募集を検討するとともに、他のこどもボランティア系学生団体と連携するなどして、こどもと交流する学生スタッフを増やしたい。地域住民の方による調理ボランティアの募集も検討しているが、調理スペース等の問題がある。また、開催のタイミングを‘第 n 土曜日’などに固定したいが、児童館の行事との調整や、学生スタッフによる運営ゆえ、試験や帰省との兼ね合いで難しい。

現在いただいている助成金を食材費に使用できないため、食料費は完全に来場者の参加費と寄付からまかなっている。一方で収入に占める寄付金の割合は少ない。地域のコミュニティにアプローチし、食材の寄付や運営資金を募るとともに、他の助成金の受け取りも検討したい。

### ◆目標

月一度の開催を継続すること

地域とより密接な関係を築けるよう、地域の方にこども食堂に協力していただくだけでなく、こちらから地域の行事に参加していくこと

北白川地域全体の幅広い年齢層の方々(幼児や年配の方など)に参加していただけるような企画を行うこと

こども食堂により多くの学生が携わることができるよう、学内外での告知や他の学生団体との連携を進めること